

一年の振り返りと抱負(配属1年を迎えて)

退院支援看護師 鳥山あおい

病棟勤務と全く違う職場環境に慣れることや、退院調整の流れ、手順を覚えることに精一杯の1年でした。今後は、せっかく看護師として退院調整に関わることになったので、知識を生かし、病気や治療、ADLの見通しや介護方法を示しながら患者、家族に寄り添って意志決定を支え、そのうえで院内スタッフや在宅支援チームと連携していきたいと思います。今まで病棟看護師として退院支援に関わっていたつもりでしたが、想像以上に奥深く、患者、家族や他スタッフとの対話、調整力だけでなく、介護保険や各制度、療養施設の特色など多くの知識も必要になります。患者、家族に寄り添った退院調整が出来るように、さらにはここでの経験が看護師としての成長につながるように学びを深めていきたいです。



医療ソーシャルワーカー 社会福祉士 杉村亜紀

今までやったことがない事をたくさん経験することができ、とても勉強になりました。始めは覚えなければならないことがたくさんあることに戸惑い、自分に出来るのか不安に感じていました。目の前のことに精一杯で患者や家族、院内の方にご迷惑をかけしまいました。先輩方に丁寧に指導して頂く中で、不安や疑問を残さないで対応すること、決まったやり方だけでなく柔軟にやり方を変えていくこと、患者や家族の気持ち、状況に目を向け、出来ることを考えることが大切だと学びました。



周りの人にご指導いただき助けてもらった一年だったので、二年目は学んだことを活かし、新たに先輩から指導されたことを自分の知識にしていけるように頑張ります。患者、家族にとって何が最善であるか考え、寄り添った支援が出来るようにしていきたいです。

難病医療相談支援センター 看護師 中村良枝

入職した頃は緊急事態宣言が出され、当センターは今まで通りの業務に支障が出始めていました。センター業務の一つとして、難病医療従事者研修会の企画開催があります。医療従事者を一つの会場に集め研修を開くことはコロナ禍ではハードルが高く、新たな研修方法を模索する1年でした。不慣れなWeb用語と格闘しWeb講習会を開催。普段参加できない職種の方々に多く視聴していただく事が出来、新しい生活様式も悪くないなと思えた出来事でした。



私は当院で看護師として7年働いた後、見識を広げたいと考え、生活の変化に合わせてながら療育センター、胃腸肛門専門病院、総合病院、クリニック等で働いてきました。無駄に年を重ねおばさんパワーが増してきましたが、新しいことにも挑戦し微力ながら尽力していきたいです。